

釧路南ロータリークラブ会報

第 15 回 例会 報告 2011.10.21 通算 1415 回

・点

鐘

長倉会長



・会 長 挨拶



皆様こんにちは。先週は、日頃の運動不足を解消するために、スポーツ例会としてパレスボールでボーリングと、牛太で焼肉バイキングでした。皆さんのスコアは如何でしたでしょうか？最近、めっきりボーリングをする機会も少なくなり、その昔の2時間、3時間待ちや市内や周辺の町のボーリング場の数を考えると世の中の変化を感じます。最近のレジャーでは、自分には理解できない1人カラオケが流行っていたり、景気が低迷しているとはいえ、スマートフォンの普及が勢いを増しています。先が読みにくい時代となってきているように感じます。その携帯や通信の市場ですが、各携帯電話メーカーによる販売合戦、スマートフォンのスペックアップ、WiFiの普及、WiFiメーカーの新たな進出。テザリング機能を持ったスマホや、タブレットPC、AUでのiPhoneの販売。WiFiやテザリングの高速化、アンドロイドのデュアルコア、IOS、iPhone4S、

フレッツ光、光電話、BBフォン、光TV、WiMAX、ウルトラWiFi、iPad2、スカイプ等々、ちょっと、気を許すと、世の中の変化についていくのが、難しくなってきました。果たして、どれだけの人が私に言って単語を理解できているのでしょうか？決して、知識をひけらかしている訳ではありませんが、これらは、近い将来、当たり前のように、ビジネスパーソンは理解するような時代となるかと思えます。自分には、関係のないと思っているiPadで仕事の打合せやプレゼンをするような時代はすぐそこまで来ています。ボーリングからの話で、時代の変化についてでしたが、その昔、テレビは、コンセントをつなげば、スイッチを入れるだけで、見れたテレビも、今や、電気屋さんで設定してもらわないと見ることもままならない時代です。時代の変化のスピードの速さはどんどん加速しているのは間違いないようです。年配の人が、ビデオデッキで予約する方法がわからないような話が良くありましたが、自分がそういう立場になる時代がすぐ近くまで来ているのか、時代のスピードが速すぎるのかどうかわかりません。また、テレビの広告や街中の看板も英語が増え、そういえば当社の社屋の看板も英語のみです。ATMで使用方法が分からず、その場で電話で確認しているお年寄り、銀行の人が出てきて一緒に操作をしている妙な光景。便利なのか？不便なのか？利用者のためか、企業の利益のためか？段々分からない時代にもなっているように思えます。先日の、深川先生の講演にもあったように、奉仕する事が商売だという原点に立ち返らなければと考える今日この頃です。今日はその奉仕の原点とも言える、日本のロータリーの先駆者の米山氏の貢献を称え、作られた米山記念奨学会についての例会となります。知る限りでは私財と投入し、学校建設をしたとの事ですが、その事実を伏せていたというのも、自分は、やったやったとアピールする厭らしさがなく、見返りを期待しないところがやはりロータリアンの鏡だと、私は思っております。高橋財団、米山委員長に厚く語ってもらいながら、DVDも交えて勉強してみましよう。

・幹事報告



- * ガバナー事務所から世界ポリオによせてのメッセージを各クラブ宛に配信されました。閲覧いたします。
- * (財)ロータリー米山記念奨学会ニュースのメール、ハイライトよねやま 139 号閲覧いたします。
- * ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団によるポリオ撲滅の公共奉仕広告「最後の1% (The last percent)」ビデオ広告のメール 閲覧いたします。

・委員会報告

出席委員会	工藤ゆかり会員
12日 会員 22名	12名出席 出席率 54.54%
15日 会員 22名	10名出席 出席率 45.45%
21日 会員 22名	10名出席 出席率 45.45%

・本日のプログラム

「米山記念奨学会月間に因んで」夜間移動例会
担当 ロータリー財団・米山委員会

■高橋康成委員長



(財)ロータリー米山記念奨学会について

外国人留学生を支援する 民間最大の奨学団体です。

財団法人ロータリー米山記念奨学会は、勉学、研究を志して日本に在留している外国人留学生に対し、日本全国のロータリアン（ロータリークラブ会員）の寄付金を財源として、奨学金を支給し支援する民間の奨学団体です。

・目的

将来母国と日本との懸け橋となって国際社会で活躍する優秀な留学生を奨学することを目的としています。

・民間最大の奨学事業

米山奨学生の採用数は、年間 800 人。奨学団体としては、事業規模・採用数とも、日本国内では民間最大です。

・特色 世話クラブとカウンセラー

奨学金による経済的な支援だけでなく、ロータリークラブ独自の世話クラブとカウンセラー制度による心の通った支援があります。

目的

ロータリー米山記念奨学会は、将来母国と日本との懸け橋となって国際社会で活躍する優秀な留学生を奨学することを目的としています。優秀とは「(1) 学業」に対する熱意や優秀性はもちろんのこと、「(2) 異文化理解 (3) コミュニケーション能力」への意欲や能力に優れている点が含まれます。

ロータリー米山奨学生は、ロータリークラブを通して日本の文化、習慣などに触れ、社会参加と社会貢献の意識を育て、将来ロータリーの理想とする国際平和の創造と維持に貢献する人となることが期待されます。

1 学業



学問に対する研究の目的・目標を明確にし、研鑽（けんさん）を重ねてその成果をあげる努力をする。

2 異文化理解



異なる言語・文化・習慣などを理解する努力をする。

3 コミュニケーション能力



人間関係における円滑なコミュニケーションを築き、自己の確立と共に他者を受入れる柔軟な姿勢をもつ。

民間最大の奨学事業

年間の奨学生採用数は 800 人、事業費は 14.5 億円（2009 年度決算）と、国内では民間最大の奨学事業（※）となっています。これまでに支援してきた奨学生数は、累計で 15,776 人（2010 年 4 月現在）。その出身国は、世界 119 の国と地域に及びます。

[（財）助成財団センター](#)が毎年実施している「[日本の助成財団の現状 — 2008 年度調査結果 —](#)」で、ロータリー米山記念奨学会は「助成等事業費上位 100 財団」で昨年に引きつづき第 5 位、民間の奨学団体としては今年も第 1 位となっています。

特色 ～世話クラブとカウンセラー～

米山奨学金には、奨学金による経済的な支援だけでなく、ロータリークラブ独自の世話クラブとカウンセラー制度による心の通った支援があります。

世話クラブとは？

日本には約 2,300 のロータリークラブがあります。そのうち 1 つのクラブが、1 人の奨学生の「世話クラブ」となります。米山奨学生は世話クラブの例会に月に一度出席し、ロータリー会員と積極的に交流

して国際交流・相互理解を深めるとともに、ロータリーの奉仕の心を学びます。

世話クラブで行われること

1. 米山奨学生は月に 1 回例会へ出席
2. 奨学金の受け渡し
3. スピーチその他、親睦活動・奉仕活動への参加など

カウンセラーとは？



奨学生 1 人に対し、世話クラブのロータリアンの中から 1 人がカウンセラーとなります。カウンセラーは、奨学生の個人的ケアにあたるアドバイザーです。様々な職業、世代で構成されるロータリークラブでの交流は、奨学生が日本文化に接し、将来や奉仕について考える機会となります。米山奨学生とロータリアンの交流は、相互理解のみならず、双方にとって財産となるものです。

◆積立財産を取り崩して 800 人の奨学を維持
寄付金収入の低迷を受け、今後、奨学生数を減らすべきか否かということが議論されたものの、来春はこれまで通り採用数 800 人とし、不足分については奨学資金別積立財産から 2 億円を上限として取り崩すことが、6 月 3 日の当会理事会で決議されました。採用数 800 人を支援するためには、14 億 5000 万円が必要です。収入に見合った採用数へ縮小すべきとの見方もありますが、採用数を減らせば寄付目標額も減少するため寄付意欲が低下し、下降が下降を呼んで事業の衰退につながりかねないとの懸念もあり、さらなる事業理解の推進に向けて努力することとなりました。

◆全ての寄付金に税制優遇が受けられます
以上のような状況で近年寄付金が低迷しておりますので、幸せに生きている恩返しのできる気持ちで寄付をして頂ければと思います。また、米山梅吉記念館にも是非行ってみたいですね、行って米山梅吉さんが素晴らしい人材であったことを熱く語りましょう。

